



杉田玄白記念 公立小浜病院広報誌

iki iki いきいき

病院
理念

地域住民の皆様とともに歩み、
愛され、信頼される病院

vol.34
令和6年3月発行



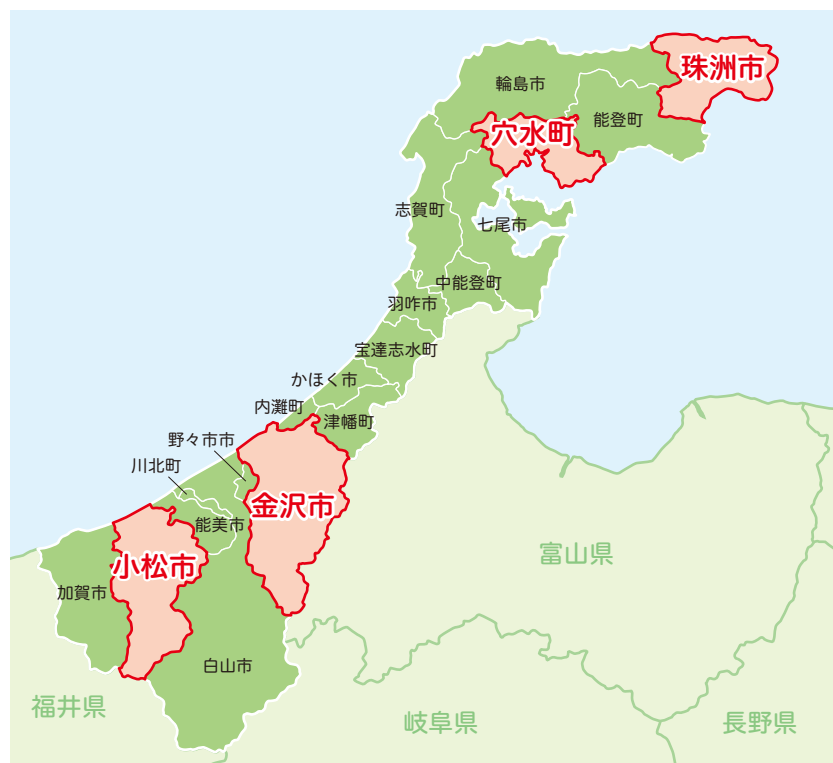
小浜病院DMATチーム

特 集

- 令和6年能登半島地震支援について
- 医学物理士紹介
- 256列512スライス全身用コンピューター断層撮影装置導入

令和6年能登半島地震支援について

令和6年1月1日16時10分に石川県能登地方でマグニチュード(M)7.6(気象庁暫定値)の「令和6年能登半島地震」が発生しました。石川県の志賀町で震度7を観測するとともに、沿岸域では津波も観測され、広い範囲で被害が生じました。災害で被害を受けた方や、各施設に集まった避難者の健康管理のため、石川県から福井県へDMAT派遣の要請があり、当院も福井県の依頼を受け翌日には石川県立中央病院に入り、救急患者の受入れを行う情報収集や指示、搬送の調整、患者受入れ、移動の業務を担いました。その後、1月5日には第2次隊、1月8日には第3次隊、1月21日には第4次隊が被災地に赴き、自衛隊と協力し患者の広域搬送を担ったり、避難が必要な老人ホーム入居者を安全な避難所へ送り届けるサポートを行いました。今回の災害の大きさから長期に渡り石川県からの派遣依頼が継続し2月18日にDMAT隊の活動は終了しました。



(当院が活動を行った地域) 令和6年1月時点

DMAT (災害派遣医療チーム)

2005年に国が災害医療の体制整備の一環として養成を開始した「災害の急性期(48時間以内)に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた災害派遣医療チーム」です。主に災害拠点病院の医師、看護師、業務調整員で構成され、災害時には医療資器材を携行して真っ先に被災地へ駆け付け、現場での医療活動、広域搬送、病院支援などを行います。



自衛隊と協力し患者搬送を行う



患者搬送のミーティング



被災地へ向かう車内

公立小浜病院DMAT 活動報告

薬剤部 須田 英揮



元日を襲った地震で大変驚かれたことと思います。小浜病院では、津波警報を受けて避難してきた方に本館9階の大会議室を開放しました。また救急外来を本館2階にある健診センターに移し診療を継続するなど対応しました。当院でも災害対応マニュアルや対応をまとめたアクションカードなどを準備し災害に備えていますが、やはりいざ発災するとうまくいかない部分もあり普段からのシミュレーションの重要性や想定外の対応の難しさを痛感します。

皆さんは、今回の津波警報で避難はされましたか？一部報道によると津波の到達まで珠洲市や輪島市では1分もなかったようです。警報発令から避難まで迅速な対応が必要ですので、普段から避難先を確認して備えることが重要かと思います。備えといえば防災セットを用意されている方もいらっしゃると思いますが、その中にお薬手帳のコピーや常備薬(3日分程度)を入れておかれるといいかもしれません。災害時の特例措置として処方箋なしでの処方箋医薬品販売が被災地域の薬局にて可能になっています。その際に、お薬手帳や薬の現物は調剤の参考にできますので備えとしてぜひ検討してみてください。

能登半島地震に小浜病院からDMAT隊4隊を派遣しました。小浜病院は地域災害拠点病院であり、DMAT指定病院でもあります。DMATとは、災害派遣医療チーム Disaster Medical Assistance Team の略で「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されています。今回医師1名、看護師2名、業務調整員1名のチームで活動を行いました。1隊目は、石川県立中央病院にて被災地から運ばれてくる患者の受入れや入院先の調整といった搬出調整を行い、2隊目は、珠洲市総合病院に派遣され疲弊しているスタッフの診療支援、避難所での診療、自衛隊機での患者搬送を担い、3隊目は道路状況が改善し患者搬送が本格化したことによる多数の患者搬送対応、穴水町の老人ホーム入所者の搬送業務に従事し、4隊目は、長期の避難生活で体調を崩された方のメディカルチェックの業務を担いました。今回4隊をシームレスに派遣できたことは普段から隊員の養成を続けてきた小浜病院の一つの成果ではないかと自負しております。今後の支援要請に備えて準備を継続していきます。



当院の放射線治療に医学物理士が新たに加わりました。

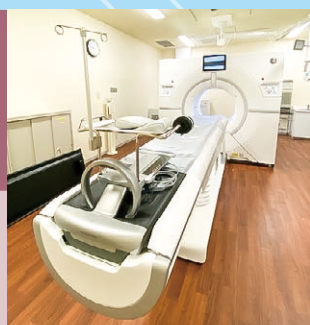


医学物理士
あき やま さと み
秋山 聡美

医学物理士という言葉をご耳にしたことありますか？医学物理士とは、物理学の科学的知識を医療分野に応用する専門職であり、放射線治療・診断・防護・安全管理など仕事は多岐に渡りますが、その役割は広く知られておりません。

私は普段、診療放射線技師として仕事をしていますが、2022年度に資格を取得したことにより医学物理士としても放射線治療に携わることとなりました。医学物理士にとって放射線治療における品質管理は非常に重要な仕事です。放射線治療における品質管理は多くの項目がありますが、例えば、装置から正しい量の放射線が出ているかを調べ、必要に応じて調整することなどがあります。また、放射線治療計画においても医学物理士は重要な役割を果たします。どの部位にどれだけの放射線を照射するかは、放射線科医と協力して決定します。さらに、完成した治療計画が適切であるか検証を行うことも医学物理士の仕事の一つです。このような業務を通じて、放射線による副作用を最小限に抑え、がんを効果的に制御します。

これらの業務を実践できるようになるためには、ますますの勉強と経験が必要です。若狭地域の皆様が安心して放射線治療を受けられるよう、これからも一層の努力をして参ります。



256列512スライス全身用コンピューター断層撮影装置 (RevolutionCT: GEヘルスケアジャパン社製)を導入しました。

2023年12月に導入された新しいCTの技術により、
4つのことが新たに可能となりました。

- 短時間撮影可能**：従来装置と比較して高速で撮影を行うことができます。そのため、撮影時の息止め時間が大幅に短縮され、検査全体の時間も短縮されます。これにより、被検者の快適さが向上し、検査の待ち時間も短縮されます。
- デュアルエネルギー撮影(※)による造影剤の低減**：この装置はデュアルエネルギー撮影を採用しており、その特性を活かすことで、検査時に使用する造影剤の量を減らすことが可能です。これにより、患者さんの負担が軽減されます。
- 金属アーチファクト(虚像)の低減**：画像再構成ソフトも更新されたことにより、金属によるアーチファクト(虚像)を減らすことができます。これにより、金属製のインプラントや装具を持つ患者さんでも、より正確な画像が得られ、診断の精度が向上します。
- 高心拍の心臓検査における薬剤不使用**：高心拍により動きの早い心臓CT撮影において、以前は、心拍状態をお薬でコントロールしつつ撮影を行い、不整脈の患者さんの心臓CT撮影は、難易度が高く断念することもありました。新たに導入されたCTは、撮影時間が約1秒と非常に短いため、心拍が速い患者さんや不整脈のある患者さんでも、お薬を使用することなく撮影が可能です。これにより、患者さんの負担が軽減され、より正確な診断画像を得ることができます。

※ デュアルエネルギー撮影：エネルギーの異なるX線を用いて撮影することにより、造影剤による造影効果の増強が可能

